

久保田茂隆先生と情報教育

上 山 俊 幸

久保田茂隆先生は、私が本学に着任したとき、情報関連科目の教員としてすでに活躍されておられた。先生は、昭和58年4月に本学に任用されたあと、平成24年3月に定年で退職されるまでの間、情報教育に携わってこられた。本学に専任教員として任用されるまでも、昭和49年4月から本学非常勤教員をされていたので、定年退職されるまで38年間の長きにわたって本学の情報教育を進めてこられたということになる。したがって、大学における情報教育、とりわけ社会科学系大学における基礎教育としての情報教育を初期段階から推進されてこられたとあってよい。私が着任してからは、「頼むよ」と言われ、徐々に情報関連の仕事を私に譲るようにして情報環境の運用管理面からは身を引かれたが、情報教育に関しては、さまざまな教育方法にチャレンジされていた。

私が本学に着任した平成3年には、本学に富士通株式会社製の汎用コンピュータが導入されていて、端末が第3コンピュータ実習室に配置されていた。それらの端末はノンインテリ端末、いわゆるダム端末として使われていた。つまり、当時はまだホストコンピュータを使った集中処理を行っていたのである。いわゆるレガシーシステムである。ソフトウェアは、言語系としてCOBOLとFORTRANのコンパイラが載っており、それらを使ったプログラミング教育が行われていた。また、統計解析教育用としてSASがこれもホストコンピュータに載っており、それを使った情報教育も行われていた。久保田先生は、この第3コンピュータ実習室で主にCOBOLを使ったプログラミング教育をされていた。その頃は、プログラム開発環境がまだジョブコン、つまりジョブコントロールを各自がコマンドレベルで行わなければならなかったもので、コンパイルや実行にも手間がかかっていた。

現在の7号館の建っている場所に旧7号館があり、その2階に第3コンピュータ実習室とは別にコンピュータ実習室があった。実習室にはNECのPC-9800シリーズのパソコンが設置されていたが、これらのパソコンはまだスタンドアロンでの使用であって、いまのようなネットワークに繋がってはいなかった。また、プリンタ

も現在のようにネットワークに繋がったレーザープリンタではなく、パソコン2台に1台の割で設置されたインパクト型ドットマトリクスプリンタで、印字音が非常にうるさかったことをよく覚えている。本学の情報教育環境がネットワーク構成になるのは、インターネットが普及し始めた1994年度の終わりまで待たねばならなかった。

PC-9800シリーズのパソコンにインストールされていたワープロソフトも Word ではなく、いまはあまり使われなくなった一太郎であったし、表計算ソフトウェアも Excel ではなく Lotus1-2-3であった。久保田先生はこの実習室の整備に尽力され、ここでも情報教育をされていた。久保田先生がプリンタ音の喧噪のなかでゼミの学生を熱心に教えておられたことや、キーボードが早く打てるようになる必要があるとして、この古い実習室に置かれたパソコンを使って、学生にタイピング練習をさせていたことを昨日のように思い出す。

私は企業にいるときに汎用コンピュータを使っていたし、前任校では専門職員がいなかったため教育だけではなく汎用コンピュータの運用までやっていたが、本学は職員のかたが運用をされていた点で恵まれていた。毎月行われていた富士通株式会社のシステムエンジニアやカスタマーエンジニアとの定例会に、久保田先生とともに利用者サイドとして参加し、不具合への対応を協議するなどして保守状況に関する情報共有を行っていた。その定例会では本学の情報教育にとってできるだけ良い情報環境を実現しようと富士通側に要望を出して、テストの実施結果を報告してもらっていた。

商経学部において教職課程教科「情報」を設置するため、文部科学省に申請したが、その時に文部科学省から小出しに意見を言われながらも、久保誠先生と私で根気よく申請文書を手直ししていた。そのとき、久保田先生の担当されている「情報システム論」や「コンピュータシステム」などを教職課程の構成科目にするためにシラバス等でご協力をいただいた。

久保田先生は、研究教育以外でも積極的に活動されていた。平成10年4月から平成12年3月までは商学科長を務められた。また、学内の各種の委員も多く引き受けられ、とりわけ学生部の委員を6回もご担当されるなど、大学、学部の行政面においても貢献された。学生部委員を多く担当されたのは、学生の面倒をみるがお好き

な性格がそうさせたのではないだろうか、ゼミや授業における先生と学生のやりとりを見ていてそう思う。ゼミの卒業生が先生の研究室をよく訪ねてきていたことから、学生との交流を大事になさる先生のお人柄がよく分かる。

久保田先生の研究面での業績については、このあとに細かく記載されているので詳細は割愛するが、コンピュータに関連する学会に所属され、研究されてきたことを付け加えておきたい。

久保田先生は、定年後も名誉教授として本学の情報教育に尽力されておられる。先生への感謝の気持ちを込めて、今後のご健勝とご活躍をお祈りしたい。